



「こころ彩るところ」フジフィルム スクエア

2019年度活動トピックス

令和元年。こころ彩る新たな取り組み。

写真展の開催本数67本 おかげ様で、来館者数約48万人

FUJIFILM SQUARE

2019年度活動トピックス

「FUJIFILM SQUARE(フジフィルム スクエア)」は創業以来、写真文化の発展に貢献してきた富士フィルムが、写真が持つ価値を伝える活動の一環として2007年に開館した年中無休*・入館無料の複合型ショールームです。2019年度は約48万人の方にご来館いただき、「写真の原点を感じた」「プリントが美しく、見ごたえがあった」「心豊かな時間を過ごした」などの感想をいただきました。

オリジナルプリントを思う存分鑑賞する。

出展者の、作品作りの背景や意図を理解する。

写真家の心に共感し、一緒に見ている人と気持ちを分かち合う。

歴代のカメラや写真の歴史を知り、好奇心の羽を広げる。

この場所で生まれる出会いや感動で、お客様の心が鮮やかに彩られ、その体験が色褪せずに記憶に残ること。フジフィルム スクエアはこのような体験ができる「こころ彩るところ」を目指し、活動してきました。

この『2019年度トピックス』では、フジフィルム スクエアで2019年度に実施した活動をダイジェストでご紹介いたします。スマートフォン、SNSが一般化し、写真の在り方が多様化する現代、フジフィルム スクエアの写真を通じた「こころ彩る」活動をご理解いただく機会となれば幸いです。

写真展の開催本数67本

当社が主催する企画展17本、その他当社が主催/共催/協力する写真展12本、プロの写真家やアマチュアの写真愛好家の方から作品を募集する公募展38本、合計67本の写真展を開催しました。例えば、平成をスナップというジャンルで総括した「平成・東京・スナップLOVE」、美術と写真の境界を超えた写真表現から「写真とは何か」を再考した「『覚醒する写真たち』今 道子 + 佐藤時啓」、文学の世界を写真で表現した「小林 修 写真展 司馬遼太郎『街道をゆく』の視点 歩いた風土、見抜いた時代」など。これらの価値の高い写真作品を銀写真プリントで展示しました。

おかげ様でご来館者数約48万人、鑑賞サポート活動の参加人数約1万4千人

幅広い年代層の約48万人の方にご来館いただきました。また、写真を「見る」だけでなく、出展者と来館者をつなぐ様々な体験の場も提供。出展者が展示会場で作品解説を行うギャラリートークや講演会には、1万4千人近い方にご参加いただき、「解説を聞くことで、より興味深く鑑賞できた」などの声が寄せられました。

※年末年始を除く

フジフィルム スクエア施設コンセプト



・本データは2019年度の自社調査に基づくものです。
 ・2019年度とは2019年4月1日から2020年3月31日を指します。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から臨時休館した2020年2月28日から6月8日までのうち3月31日までの33日間と、台風の影響による臨時休館および年末年始を除いた324.5日が2019年度の写真展開催期間です。

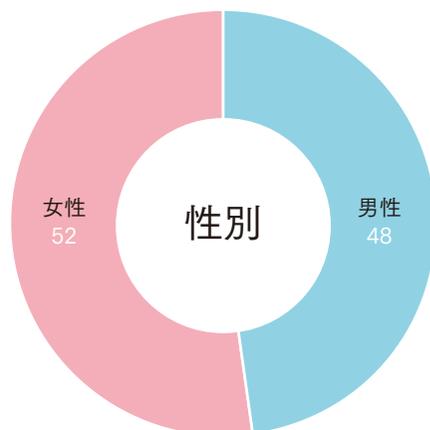
来館者数

483,007名

1日平均

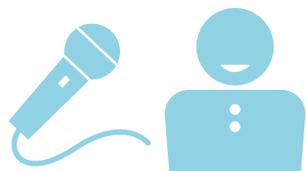
1,488名

来館者属性



ギャラリートーク・講演会など、鑑賞サポート活動の参加人数

13,986名



開催回数

497回



※自社アンケート調査による。(回答人数6,101人、グラフの単位は%)

写真展の開催回数

67本

■当社が主催する企画展 17本

若手写真家から作品を募集し、作品発表の機会を提供する企画展「写真家たちの新しい物語」3本、歴史的に価値の高い作品を展示する写真歴史博物館の企画写真展3本を含む。

■その他当社主催/共催/協力写真展 12本

■公募展 38本



令和元年。こころ彩る新たな取り組み。

平成から令和へ。写真文化のさらなる発展と心豊かな社会の実現を目指すフジフィルム スクエア。新たな取り組みを、代表的な事例を通してご紹介します。



「これからも
スナップ写真を
撮り続けようと
思いました」

「写真が
好きな人に
夢と希望を与え
続けてほしい」



若手 × チャンス

新たな取り組み②

若手写真家応援プロジェクト「写真家たちの新しい物語」(公募個展) / ポートフォリオレビュー

未来を担う若手写真家に発表の場を提供。

フジフィルム スクエアで若手写真家に個展開催の機会を提供し、プリントなどの制作費を支援しました。

【若手写真家応援プロジェクト「写真家たちの新しい物語(公募個展)」】

準備段階から若手写真家に寄り添い、最高の写真展となるようサポートさせていただきました。開催期間中に実施したギャラリートークなどのイベントでは出展者の若手写真家と来館者との出会いが生まれました。

【ポートフォリオレビュー】

「平成・東京・スナップLOVE展」ではポートフォリオレビューを初開催。一般公募者の作品集に対し、プロ写真家による作品制作の助言と審査が行われました。そして、選ばれた2名に写真展開催の権利を提供しました。

1. 「写真家たちの新しい物語」渋谷 敬志 写真展「まなざしが出会う場所へ—渴望するアフリカ—」2019年5月31日～6月13日 会場風景
2. 「写真家たちの新しい物語」千葉 格 報道写真展「BACK-GROUND」文・細江克弥 2020年1月24日～2月6日 会場風景
3. 4. ポートフォリオレビュー会場風景

「自分の世界観を
鮮明に打ち出せた」
「開催後は、自分が
やりたい種類の仕事
の依頼が増えた」
(渋谷敦志氏)



「著名な写真家の方
に講評いただける
チャンスをもらって、
希望がわいてくる」
(ポートフォリオレビュー参加者)



FUJIFILM SQUARE 企画写真展「平成・東京・スナップLOVE」 Heisei - Tokyo - Snap Shot Love
2019年6月21日～7月10日

平成をスナップというジャンルで総括。

31年間続いた「平成」、怒涛の変貌を続ける「東京」、そして写真家の一瞬の心の動きとカメラが連動したときに生まれる「スナップ」写真をキーワードに、スナップの名手から若手まで、写真家11人が平成の東京を舞台に生み出した作品を紹介しました。「平成」の街と人とカメラを通した11通りの対話から、スナップの魅力を感じつつ、新たな時代「令和」に思いをはせていただきたい、という思いを込めた展示に、学生から作家の長年にわたるファンまで、様々な世代の来場者から「充実した展示でした」「写真の見方の幅が広がりました」など、感動の声をいただきました。

出展写真家: 有元伸也、ERIC、大西正、大西みつぐ、オカダキサラ、尾仲浩二、中野正貴、中藤毅彦、ハービー・山口、原美樹子、元田敬三(敬称略)

1. 出展写真家11人の集合写真 2.3. 会場風景 4. トークイベントの様子

・ポートフォリオレビュー 一次選考 ①2019年6月22日 14:00～17:00 ②2019年6月30日 14:00～17:00 ③2019年7月5日 18:00～21:00
・ポートフォリオレビュー 最終選考会 2019年7月7日 14:00～15:15

スナップ × 時代

新たな取り組み①

令和元年。こころ彩る新たな取り組み。

平成から令和へ。写真文化のさらなる発展と心豊かな社会の実現を目指すフジフィルム スクエア。新たな取り組みを、代表的な事例を通してご紹介します。



「司馬さんに同行したような気持ちになりました」



「司馬遼太郎の本を読んでみたくなった」



美術 × 写真

新たな取り組み④

FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館 企画写真展「覚醒する写真たち」今 道子+佐藤時啓
Part1 2019年9月1日～10月29日/Part2 2019年10月30日～12月27日

美術と写真の境界を超えた写真表現から、「写真とは何か」を再考。

現代美術でも写真表現が目立ってきた1980年代後半、異色の写真家として登場し現在も活躍する今 道子氏と佐藤時啓氏。美術と写真の両方面から高く評価される両氏を特集しました。二人に共通するのは写真以外の美術から写真表現に行き着いたこと、三次元のオブジェや運動を二次元に完結させること、写真芸術として認められるプリント作品を最終形態とすることです。二人の写真作品は限りなくアートに近いものですが、写真の原理や本質を捉えています。デジタル写真が圧倒的な位置を占め、写真表現が多様化する今日において、本展は「写真とは何か」を再考する試みとなりました。

1.佐藤時啓氏によるギャラリートーク 2.Part2 佐藤時啓「呼吸する光たち」会場写真
3.Part1 今 道子「蘇生するものたち」会場写真 4.今 道子氏によるギャラリートーク



「初めて来ましたが、写真の芸術性を感じた！」

「写真の美しさを改めて感じました」



写真 × 文学

新たな取り組み③

FUJIFILM SQUARE 企画写真展「小林 修 写真展 司馬遼太郎『街道をゆく』の視点 歩いた風土、見抜いた時代」
2019年11月1日～11月20日

写真展が美しい大サイズの銀写真プリントで蘇らせる文学の世界。

作家・司馬遼太郎の作品世界を写真で表現し続けているカメラマン、小林 修氏が長年にわたり撮り重ねてきた膨大な写真群の中から『街道をゆく』をテーマに厳選した96点を展示しました。司馬文学で語られる幕末や戦国時代の風景は現代に残っていませんが、小林氏は感覚を研ぎ澄ませ、現代の風景の中に司馬作品の世界が立ち上がる瞬間を、明快に、そして繊細にとらえました。

司馬作品の愛読者の方から、「写真展を見て、司馬遼太郎の本を読んでみたくなった」という方まで幅広い層が熱心に時間をかけて鑑賞する姿で会場は静かな熱気に包まれ、「写真がリアルであつたかもその写真の中に自分が入り込んだような気分だった」「『街道をゆく』の文章の場面が蘇りました」「本で見ていた写真のオリジナルの写真を見て、再度感動しました」など、様々な感動の声が寄せられました。

1～3.会場写真 4.小林 修氏によるギャラリートーク

「こころ彩るところ」

フジフィルム スクエアは、
写真文化を未来へと
絶えず守り育み続けます。

2020年に入り、新型コロナウイルスの感染が世界中に拡大しました。感染症に罹患された方、影響を受けている方々に心よりお見舞い申し上げます。そして、医療従事者の方々に感謝と尊敬を申し上げます。フジフィルム スクエアは新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から2月28日から6月8日まで臨時休館しました。新型コロナウイルスの影響で社会や生活環境は大きく変化しており、フジフィルム スクエアも写真展開催において新しい生活様式に適した形を模索しています。しかし、人間の喜びも悲しみも愛も感動も全てを表現する写真は、人間にとって無くてはならないものであり、当社が長年のおお客様のご愛顧にお応えするためにも、写真文化の継承と発展を使命とすることには変わりはありません。

これからも当社は出展者の皆様、来館者の皆様と共にプリントだからこそ伝わる真の写真の価値を共有し、フジフィルム スクエアの活動などを通じ、写真文化を守り育み続けます。



富士フィルムフォトサロン 東京

写真文化の向上と写真の普及に寄与する、クオリティの高いさまざまなジャンルの写真を展示する写真ギャラリーです。プロ・アマを問わず写真の魅力、素晴らしさを表現した作品を厳選し、一週間単位で写真展を開催しております。公募についてはホームページをご覧ください。



写真歴史博物館

貴重なアンティークカメラや富士フィルムの歴代カメラの展示に加え、歴史的に価値のある写真を展示する企画展も定期的に開催しています。写真の文化、カメラの歴史的進化をご覧いただける博物館です。170年を超える写真文化の変遷をぜひお楽しみください。



タッチ フジフィルム

「チェキ」をはじめとする大人気 instax シリーズや富士フィルムのミラーレスデジタルカメラ「GFX・Xシリーズ」、交換レンズなどの最新製品を展示しています。また、スマートフォンからも簡単にご注文いただけるプリントやフォトブックバリエーション、写真をもっと気軽に飾っていただくための「WALL DECOR」、写真を使ったオリジナルギフト「PHOTO GOODS」等を展示し、新しい写真の楽しみ方をご提案しています。



ASTALIFT ROPPONGI フジフィルム ヘルスケアショップ

TVMCでおなじみの「アスタリフト」をはじめ、長年の写真分野の研究開発で培った独自の技術に応用した富士フィルムの化粧品・サプリメント・ヘアケア製品を全商品取りそろえています。化粧品やドリンクをお試しいただき、ビューティーコンサルタントのアドバイスを受けることもできます。当店限定のお得なキャンペーンなども実施しています。



FUJIFILM SQUARE

フジフィルム スクエア

開館時間 10:00～19:00 (入館は18:50まで)

無休(年末年始を除く)／入館無料

〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3 東京ミッドタウン・ウェスト 1F

TEL.03-6271-3350(10:00～18:00) <http://fujifilmsquare.jp>

都営大江戸線「六本木駅」8番出口と直結

東京メトロ日比谷線「六本木駅」東京ミッドタウン行き地下通路で徒歩4分

東京メトロ千代田線「乃木坂駅」3番出口より徒歩5分